

海外生活 エッセー

ソウル事務所

ソウルの「本がある場所」を巡る

(一財)自治体国際化協会ソウル事務所 所長補佐 岡 詩織 (島根県派遣)

→ 本に着目したまちづくりが進むソウル

「人は本をつくり、本は人をつくる」—これは、ソウル事務所のすぐそばにある石碑に書かれている言葉です。韓国を代表する大型書店、教保文庫の創業者シン・ヨンホ氏によるものだそうですが、本が好きな人、心に残る1冊を持っている人なら、だれもが深く頷く言葉ではないでしょうか。

近年、ソウルでは、本に着目したまちづくりの機運が見られ、本をテーマとした文化空間がつけられているほか、店主の個性が際立つ個人経営の本屋が人気を集めています。

→ 本を読む文化の醸成

行政が取り組む最新のまちづくりの事例としてご紹介したいのが、2019年9月に複合文化施設としてオープンしたノドゥル島です。ここには、本屋と図書館を一体化させた施設「ノドゥル書架」が設置され、市民の新たな憩いの場となることを期待されています。

また、私が気に入っているのは、廃線となった鉄道跡地の再開発に際し、「本を読む文化」をつくっていこう



「京義線ブックストリート」は若者の街弘大エリアにあり、休日には多くの人々が散策している

との趣旨で企画された「京義線ブックストリート」です。復元した駅舎や列車型の書籍展示・販売ブースの合間に、本に関連したさまざまなオブジェが並べられ、「大人になるまでに読むべき本100選」というテーマで募集された推薦図書の書名が刻まれているモニュメントの傍らでは、思い思いに歓談する若者たちの姿が見られます。

→ 居場所としての本屋

「京義線ブックストリート」の周辺には、雑貨店やカフェを併設した、おしゃれな個人経営の本屋が多く見られます。個人書店は、品揃えにも雰囲気にも店主の趣味が反映され、単に本を入手する場所ではなく、来訪者が寛いだ時間を過ごす居場所として機能しています。

そのことを示す例が、本屋に置かれた椅子の数です。過去には床で立ち読みならぬ「座り読み」をする人もしばしば見られたようですが、今は大型書店も個人書店も試し読み用の椅子を置いているところが多く、みんなじっくりとどの本を買おうか吟味しています。時には子どもに読み聞かせをする親子連れもいて、なんだか図書館のようにも思えてきます。

日本では、都市のみでなく地方に

も个性的な本屋や図書館が数多くあり、本好きな人たちにとって、それらを巡ることが旅の楽しみの一つにもなっています。ソウルにいらっしやる際にも、韓国料理やショッピングを楽しんだ後は、本のある場所を歩いてみるのはいかがでしょうか。



ソウルを代表する個人書店の一つ「THANKS BOOKS」では、窓際にある机と椅子を使って本を選ぶ時間を楽しめる